

学校評議委員会 議事録

- 1 開催日時 平成27年6月29日(月) 13:00～
- 2 開催場所 北海道八雲養護学校 校長室
- 3 出席者 評議員3名 八雲町住民生活課課長補佐 森 美智子
八雲病院理学療法室長 三 浦 利 彦
北海道八雲養護学校同窓生 石 前 翔 平
学校職員3名 北海道八雲養護学校長 小 林 守
教 頭 二 上 顕 億
事務長 中 野 義 之

4 説明・意見交換

(1) 今年度の学校概要及び経営について

- ・今年度の児童生徒在籍状況及び教職員の状況
 - ・今年度の学校経営について
- 以上学校長より説明

意見等

(学校長)

- ・今後の学校については、病院の移転もありいろいろなところからの問い合わせがある。道教委に対してもその状況を報告しているが、今後についてはまだ決まっていないとのことである。
- ・札幌に新たに病棟を建てることに合わせて、学校もどのような形になるか解らないが、ここで行っている教育を最低限引継いでいきたい。
- ・渡島北部において特別支援学校のニーズがどれだけあるか函館養護・七飯養護に調査した結果、八雲・長万部・瀬棚・乙部・森から来ている子は、中学生が数人、小学生にいたっては0人であった。小学生にそういう障害の程度の子がいないのか、地元の特別支援学級で対応している状況であると思われる。保護者も小さい子供を自宅から通える学校を選択していると思われる。

(森評議員)

- ・子供が小さければ、親の思いとして遠くの学校より地元の特別支援学級へ通わせるの方を選ぶのがここ数年多いのでは

(学校長)

- ・ニーズとして0人という状況では、ここを残すという話にはならないと危惧している。

(森評議員)

- ・病院も今のレベル、質を保った形での移転するのが良いか、子供達にとってによい方向になればいい。

(学校長)

- ・人手不足等により現状維持が困難で、移転等により解消するのであれば子どもたちにとってもその方が良い。
- ・先行きが不透明だが、ここがあるうちはしっかりやっていきたい。

(2) 今年度の学習活動の概要について

(3) 地域との連携協力で根ざした特別支援教育の在り方とセンター校としての役割について

以上教頭より説明

意見等

(教頭)

- ・石前評議員の時の高等部見学旅行はどうだったか

(石前評議員)

- ・スタジオパーク(NHK)やディズニーランドにいけ、普段体験出来ないことが体験出来るなど、いい刺激になり良かった。

(学校長)

- ・まだまだ見て頂きたいところが東京にはたくさんあるが、手続きの関係で飛行機の待ち時間が結構あるなど時間が足りない。

(三浦評議員)

- ・日程どおり行動できたか

(学校長)

- ・行きに少し遅れがあった

(三浦評議員)

- ・車椅子のでの団体行動について一般の方に迷惑をかけないことも学習のための修学旅行である。
- ・人の手伝いがあったり、いろいろなことに時間がかかったり、それを踏まえた上での準備であり、それも学習の一つである。
- ・本来は飛行機よりも手続きの少ないＪＲが望ましい。
- ・新幹線が通れば違う形での修学旅行となり、新たな楽しさも共有できる。

(石前評議員)

- ・自分たちで楽しく移動できる手段を学べる。

(三浦評議員)

- ・体力的・手伝い等、いい条件での修学旅行を行う事は、ただめずらしい物を見て記憶するだけでなく、社会の中での相対的な自分という物を見つける良い学習になる。

(学校長)

- ・新幹線は電動車椅子に対応しているのか

(三浦評議員)

- ・対応できると思うが、団体行動だと不明。飛行機よりはシートが広く離発着の制限がない。

(教頭)

- ・新幹線の１両を貸切にして酸素 TENT を張るなどの対応で行っているという話を聞いたことがある。

(三浦評議員)

- ・病院でも本州から来る人は飛行機は厳しく、フェリーで来る人がいる。

新幹線だと非常時に停車後外に出ることも出来るし、最寄りの駅で救急車等の対応も出来るが、飛行機はそれが出来ない。

(教頭)

- ・移動時間を考えた場合、新幹線ではどこまでいけるか。

(三浦評議員)

- ・飛行機利用時の待機時管等を考えた場合、新幹線での移動時間の方が有意義に過ごせるし、旅行の選択の幅が広がる。
- ・緊急時の対応も飛行機では厳しいと思われる。

(学校長)

- ・車椅子のバッテリーの対応が大変である。
- ・今回の修学旅行では、本校の生徒対応として東京からＪＡＬの職員が函館空港の来て、搭乗の手続きをサポートしてくれた事例があった。

(三浦評議員)

- ・特別支援学校で呼吸器を付けている人の修学旅行は、東京での学校では飛行機の利用はないので、特別な経験だったと思われる。
- ・先程も病院の移転の話があったが、詳しい話は入っていないが移転するとしても今のレベルを下げないことが大前提。
- ・学校でやって頂いている筋ジストロフィーの教育を含め、一緒に提供するべきであり、今いった修学旅行・水泳学習等どういう風に継承するべきかきちんと考えて行かなければならない。

(教頭)

- ・今年度病弱虚弱教育の研修会を行うため、この機会を利用し多くの人に筋ジスに対する教育、ICT 機器の活用、ハロウィック水泳法等を発信することにより、多くの人に伝える一助になればいい。

(三浦評議員)

- ・先日行われた自立支援協議会で、障害者福祉サース事業所見学をしたが、大変勉強になった。地域に根ざした人達の実践していることが大変素晴らしく、良い物が出来上がっているし病院の限界も見えた気がした。
- ・もう少し早くこういう活動があれば現状も変わっていたかもしれない。

(教頭)

- ・病院も学校も今後は不透明だが、出来ることを続けていかなければ行けない。
- ・時間となりましたのでこれで終了、次回開催予定平成２８年２月２２～２６日の週で。